

であう。つながる。ひろがる。



同志社大学ボランティア支援室

活動報告書

2017





ボランティア支援室長
上田 雅弘

1. はじめに

本学は創立以来、建学の精神である「良心教育」において、知育とともに、キリスト教に基づく徳育を重視しています。その徳育の一環として、学生によるボランティア活動を積極的に支援し、学生の自主性、社会性および奉仕の精神を育むとともに、市民社会の一員としての自覚を促すことを目的として、2016年4月にボランティア支援室を開設し、2年目を迎えました。

ボランティア支援室は、ボランティア情報の収集や学生への情報提供をはじめとして、ボランティア活動への学生の参加促進、学生のボランティア活動に関する助言、ボランティアセミナーや講習会の開催等を行っています。また、学内外のボランティア団体等との連携・協力によりネットワークを構築し、学生のボランティア活動の場を広げるとともに、地域社会と大学をボランティアの心でつなぐことを目指しています。

2. 学生の思いを受け止める組織

ボランティア支援室は、学生の「ボランティア活動をしたい」という強い気持ちに寄り添い、その思いを受け止めて、社会と関わる一步を踏み出す応援をするために発足しました。ボランティア活動を軸とした学生生活の過ごし方を一つの選択肢として提示することは、学生の可能性や成長を支援するという面において、非常に重要なことだと考えています。実際、2017年7月に九州北部を襲った豪雨災害発生の際には、「現地のためになにかしたい」という学生からの要望がボランティア支援室に多く寄せられました。その思いを受け、夏期休暇には、本学学生が現地で活動する場を提供することができました。これは2016年に締結した「大学のまち京都 災害ボランティアに係るパートナーシップ宣言」のもと、京都市内5大学と京都市社会福祉協議会との協働により実現したものでした。残念ながら、当日は台風接近による悪天候により支援活動の中止を余儀なくされましたが、現地視察や現地住民との交流といった活動は、学生たちにとっては現地でしか得ることのできない貴重な経験となったようでした。また、これと並行して学内では募金活動も試みましたが、これには一般学生とボランティアサークル等に所属する多くの学生が協力し、様々なボランティアの思いを一つの活動として集約することができました。このような経験から、本学学生の潜在的なボランティアニーズを受け止める組織ができた意義を、改めて実感しているところです。

3. 本学のボランティア支援室の特長

本学の学生支援センターでは、2008年度から3年間実施された文部科学省の学生支援GP「地域コミュニティによる学生支援方策～京町家を拠点とした異世代協同プロジェクト」をはじめ、学生が地域社会の中で様々な立場や世代の方々とはふれあい、多様な価値観と出会うことによる成長に焦点をあてた様々な正課外プログラムを実施してきました。こうした従来からの取り組みを活かし、ボランティア支援室は、今出川キャンパスが立地する京都市上京区を中心とした地域連携におけるボランティア活動の活発化を目指すことを一つの柱としています。具体的には、上京区役所、上京区社会福祉協議会の全面バックアップを得ながら、「同志社つながる@カフェ」を基幹事業として開催し、地域と学生の出会いの場を創出しています。

さらに、学生の自主性を尊重する学生主体の支援室を目指して、支援室では「地域と共に」をスローガンに、本学学生のボランティア活動の活性化を目的として、ボランティア情報の発信・紹介や、ボランティアイベントの企画・運営などを行う学生スタッフ「ARCO」を置いています。また、本学に所属するボランティア団体のさらなる活性化を目的とした学内ボランティア団体横断型ネットワークとして、同志社ボランティアネットワーク（通称V-NET）を今出川と京田辺の両校地に設置し、ボランティア支援室が開催する情報交換会で、日頃の活動や組織運営について意見交換を行うとともに、連携プログラム等を行っています。

4. おわりに

2016年4月の設立以来、ボランティア支援室には学外のボランティア団体様から多くの情報が寄せられ、これまでに186もの団体様に登録をいただきました。今後もボランティア支援室が、学生と地域の方々をつなぐ拠点として発展していくことを願うとともに、皆様のご支援・ご協力を心からお願い申し上げます。

目次

1. ボランティア支援室長 挨拶	1
2. ボランティア支援室について	
理念・目的／活動内容／現在加盟しているネットワーク等／ボランティア支援室主催事業 2017 年度／	
ボランティア支援委員会委員	3
来訪者数／本学学生のボランティア活動状況・受入に関するアンケート	4
3. ボランティア支援室実施・参加事業	
■災害・防災・復興支援	
大学生版 災害ボランティア講座	5
九州北部豪雨災害義援金募金活動ボランティア／京都市総合防災訓練 災害ボランティアセンター 運営ボランティア	6
■地域連携・活性化	
同志社つながる@カフェ	7
ちよいボラ～学生スタッフ ARCO とボランティアに行こう！～	8
和東のお茶を守ろう！茶畑ボランティア	9
田舎の生活を体験！宿泊型スタディツアー in 和東町	10
■子ども	
同志社大学のお兄さんお姉さんとあそぼう～夏休みのしゅくだい・仕事をしよう～	10
寒梅館夏まつり／京田辺のこども食堂で こどもと一緒にご飯を食べよう！	11
梅小路公園で昔遊びをしよう！／ミニチュアクリスマスツリーを作ろう！／	
巨大すごろくで子どもたちと遊ぼう！	12
■環境	
ちよいボラ～大学周辺清掃活動ボランティア～／祇園祭ごみゼロ大作戦／	
祇園祭ごみゼロ大作戦ボランティアリーダー募集事前説明会	13
■国際	
国際ボランティアってどんなの？～有意義な夏休みのために～／	
JICA ボランティアセミナー～青年海外協力隊で海外へいこう！～	14
■講演会、講演、セミナーなど	
[スキルアップ講座] Vol.2 企画のつくり方講座	14
4. 学生組織	
■ボランティア支援室学生スタッフ ARCO	
代表挨拶／新入生歓迎イベント／合宿／勉強会	15
出張ボランティア支援室！！～この冬、ボランティア始めませんか？～／	
突撃！ボランティア支援室！ Vol.1 ～ボランティア支援室知っていますか？～／	
大学ボランティアセンター学生スタッフリーダーセミナー 2017 / 2017 年度活動実績	16
■V-NET	
V-NET 新歓交流会@今出川／ボランティアフェア～ V-NET 新歓交流会 2017 @京田辺～	17
ボランティアフェア～ V-NET 交流会～／ V-NET コラボ企画「1 日体験入部」／ V-NET 運動会	18
(今出川) 国際居住研究会／ STUDY FOR TWO / 学生団体 CHAD /	19
学生団体 LUCKY / ASUVID 今出川 / 同志社 FAST / 同志社ヒーローショー同好会	20
(京田辺) スポーツボランティア団体 Egg / Global Baton for Ishinomaki / そら /	21
同志社生涯スポーツ研究会 / PAZ MUSICA / ASUVID 京田辺	22

ボランティア支援室について

理念・目的

同志社大学は創立以来、建学の精神である「良心教育」において、知育とともに、キリスト教にもとづく徳育を重視してきました。その徳育の重要な一環として、学生によるボランティア活動を積極的に支援することにより、学生の自主性、社会性および奉仕の精神を育むとともに、市民社会の一員としての自覚を促すことを目的として、2016年4月に開設しました。

ボランティア支援室は、学生の成長への支援と同時に、その活動を通じて、大学が地域社会の一員としての責任に添えていくことを念頭に活動します。

活動内容

- ボランティア情報の収集及び学生への情報提供
- ボランティア活動への学生の参加促進
- ボランティア活動に参加する学生への助言と支援
- ボランティアセミナー、講習会等の実施
- 学内外のボランティア団体等との連携・協力

現在加盟しているネットワーク等

① 関西地区大学ボランティアセンター連絡協議会

大学ボランティアセンターのあり方を検討し、大学ボランティアコーディネーターの専門性向上とセンターの存在価値を高め、認知度向上をめざす連絡会。年間4回程度の会議を行っている。加盟団体数は14団体。

② 大学間連携災害ボランティアネットワーク

東日本大震災を機に大学間で連携を取るることによって、効果的かつ有意義な取り組みができるかを考える組織として結成。学生同士のネットワークも築き上げて、学生ならではの知恵と企画力を発揮する場も構築。現在は大学間連携による学生ボランティア活動を柱として、日本全国の125校・10団体とネットワークを構築している。

③ 大学のまち京都 災害ボランティアに係るパートナーシップ

京都市内で災害が発生した際、大学生が災害ボランティアセンターの設置・運営、また、京都市外で災害が発生した際は、災害ボランティア活動などのリーダーとしての役割を協働で行ない、「大学のまち京都」としての特性を生かした取組を行っていくもの。現在京都市内5大学と京都市社会福祉協議会で構成。

ボランティア支援室主催事業 2017年度 今出川校地：[今] 京田辺校地：[京]

月	日	タイトル・内容	参加者数	場所
4	6	V-NET 新歓交流会@今出川	19	[今] 良心館ラーニング・コモンズプレゼンテーションコート
4	25	ボランティアフェア～V-NET 新歓交流会 2017 @京田辺～	17	[京] ローム記念館劇場空間
5	13 14	[体験ボランティアプログラム第2弾] 和東のお茶を守ろう！茶畑ボランティア	4	京都府相楽郡和東町
5	26	第7回同志社つながる@カフェ 地域のお祭りボランティア～祇園祭のごみ問題を解決しよう～	12	[今] 寒梅館地下A会議室
6	20	国際ボランティアってどんなの？～有意義な夏休みのために～	14	[今] 良心館106教室
6	27 28	JICA ボランティアセミナー～青年海外協力隊で海外へいこう！～	63	[今] 良心館305教室 [京] ローム記念館劇場空間
6	29	大学生版 災害ボランティア講座	10	[今] 良心館302教室
7	12	第8回同志社つながる@カフェ 子どもの貧困を考える～子ども食堂の事例から～	11	[今] 寒梅館地下A会議室
7	15 16	祇園祭ごみゼロ大作戦	71	京都市内(鉾町一帯)
7	27	平成29年7月九州北部豪雨災害 義援金募金活動ボランティア説明会	5	[今] 明徳館1番教室 [京] 成心館207会議室(TV中継)
7	28 ～ 8/6	九州北部豪雨災害義援金募金活動	85	両校地
8	7 ～ 10	平成29年7月九州北部豪雨被災地 ボランティア	4	福岡県朝倉市の被災地
9	2	京都市総合防災訓練 災害ボランティアセンター 運営ボランティア	7	東寺 (京都市総合防災訓練会場)
9	20	[スキルアップ講座] Vol.2 企画のつくり方講座	14	[今] 良心館410教室

月	日	タイトル・内容	参加者数	場所
9	27	1 日体験ボランティアプログラム 京田辺のこども食堂でこどもと一緒にご飯を食べよう！	3	京田辺市中部住民センター
9	30 ～ 10/1	[体験ボランティアプログラム第3弾] 和東のお茶を守ろう！茶畑ボランティア	10	京都府相楽郡和東町
10	20	ボランティアフェア～V-NET 交流会～	29	[京] ローム記念館劇場空間
10	28	1 日体験ボランティアプログラム 梅小路公園で昔遊びをしよう！	6	梅小路公園
11	3	1 日体験入部 (国際居住研究会)	2	[今] 良心館207教室
11	5	[体験ボランティアプログラム第4弾] 和東のお茶を守ろう！茶畑ボランティア	7	京都府相楽郡和東町
11	11	第9回同志社つながる@カフェ ARCOと歩こう！大学周辺でくつろぎツアー	5	[今] 大学周辺
12	10	1 日体験入部 (同志社 FAST)	3	佛光大学二条キャンパス
12	15	和東茶フェア (お茶のふるまい/講演会)	約250 /8	[今] 良心館ラウンジ/102教室
12	12 21	V-NET 運動会	49	[京] 多目的ホール
1	10	第10回同志社つながる@カフェ 上京区でできる国際交流～広げよう！外国人と地域の輪～	8	[今] 良心館412教室
2	1-8	祇園祭ごみゼロ大作戦！ ボランティアリーダー募集事前説明会	9	[今] 寒梅館地下A会議室 [京] 恵道館104教室
2	14 15	宿泊型スタディツアー (第1クール)	9	京都府相楽郡和東町
2	28	こども食堂でこどもと一緒に過ごそう！	5	京田辺市中部住民センター
3	14 15	宿泊型スタディツアー (第2クール)	19	京都府相楽郡和東町
3	17	巨大すごろくで子どもたちと遊ぼう！	33 小学生 25	[京] 多目的ホール

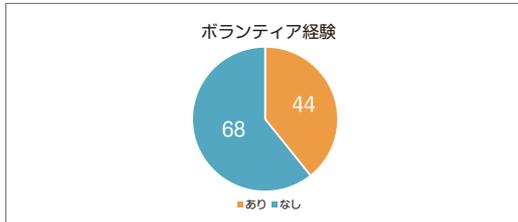
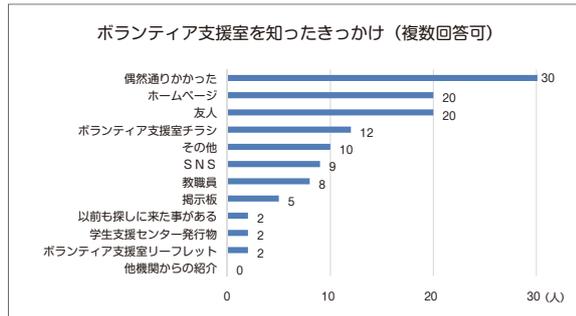
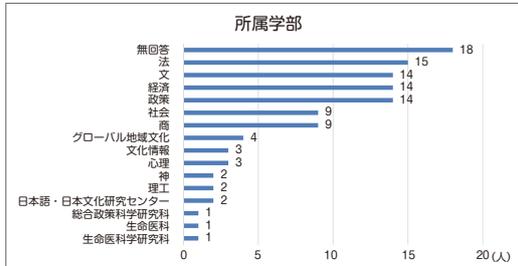
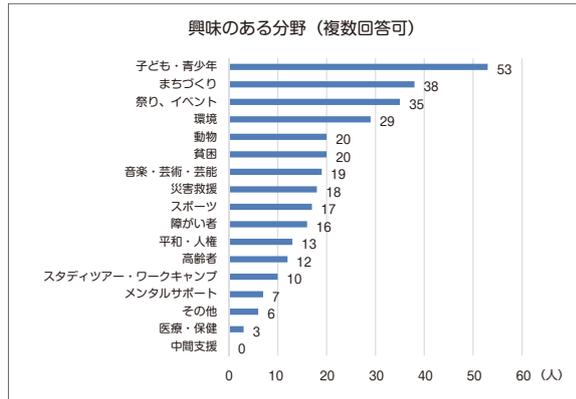
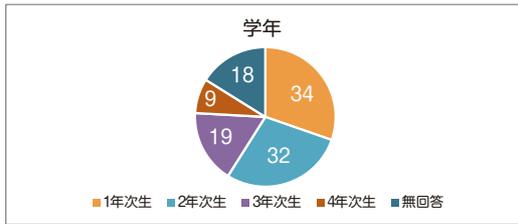
ボランティア支援委員会委員 (2018年3月現在)

氏名	役職
上田 雅弘	ボランティア支援室長 (委員長)
横井 和彦	キリスト教文化センター所長
関谷 直人	神学部 教授 (学識経験者)
永田 祐	社会学部 准教授 (学識経験者)
柳井 望	学生支援機構事務部長
井上 真琴	今出川校地学生支援課長
太田 博之	京田辺校地学生支援課長

ボランティア支援室 (2018年3月現在)

氏名	所属
河合 良彦	今出川校地学生支援課 係長
大澤うらら	京田辺校地学生支援課 係長
山田 優奈	今出川校地学生支援課
阿野未央子	今出川校地学生支援課
齋藤 由華	京田辺校地ボランティアコーディネーター

ボランティア支援室 来訪者数（ボランティアシート受付数）112名



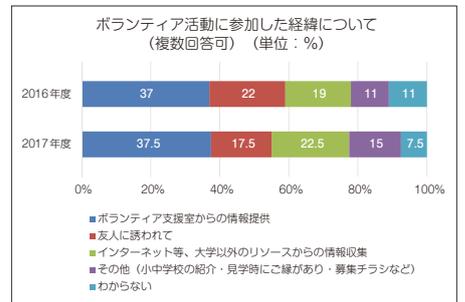
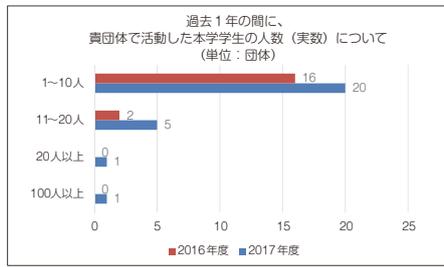
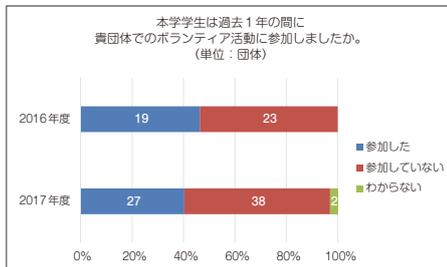
本学学生のボランティア活動状況・受入に関するアンケート

【概要】 本学に登録されているすべてのボランティア募集体を対象に、当年度における本学学生の活動状況の把握やボランティア支援室への意見収集を目的に、年に1度実施しているアンケート調査。

【調査方法】 電子メールにてアンケート用紙を送付、回収。

2016年度 回答：42団体（全131団体中） 回答率：約32% 回答期間：2017年3月31日～4月30日

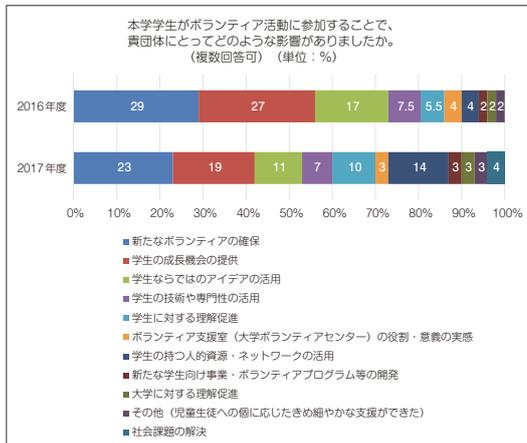
2017年度 回答：67団体（全181団体中） 回答率：約37% 回答期間：2018年3月1日～4月13日



前回調査（2016年度）と比較すると、「参加した」と答えた団体は9団体増加しており、「参加していない」と答えた団体についても増加している。このことから、ボランティア活動に参加する学生が増加しているとともに、登録されている募集体が増え、学生へのボランティアニーズが増えていることが伺える。

前回調査（2016年度：63名）と比較して、2017年度は327名と参加者総数が大幅に増加しており、ボランティア活動に参加した学生が増加していることが分かる。また、100名以上の参加があった団体については、ボランティアサークルの定期的な活動参加によるものであり、ボランティア支援室をきっかけとして団体と深い関わりを持つことにつながった。

前回調査（2016年度）に引き続き最も多い回答が、「ボランティア支援室からの情報提供」である。割合についても0.5%増加しており、ボランティア支援室を利用して、ボランティア活動に参加している学生が増加したといえる。



前回調査（2016年度）と比較すると、今年度も引き続き「新たなボランティアの確保」が最も多い回答であった。また、「学生の持つ人的資源・ネットワークの活用」が10%増加しており、学生が活動へ参加することで広がりがあったことが伺える。

【ボランティア支援室に対する意見】

2016年度

- ・意欲のある学生ボランティアを得ることができた。
- ・学生がボランティアに新たに参加することで、他のボランティアの刺激となった。また、学生ならではの視点を知ることができた。
- ・「ボランティアしてみたい」という気持ちのある学生さんにボランティアのきっかけをもらすことができた。
- ・ボランティア支援室来訪者に活動内容を知ってもらえたことで、今後のボランティア申込に期待ができる。
- ・ボランティア支援室とのつながりができ、情報共有が可能となった。

2017年度

- ・よい人材がボランティア参加してくれた。
- ・ボランティア支援室から情報提供していただいたことで、学生自身がより関心をもって参加してくれた。
- ・ボランティア確保と今後の広がりがつながった。
- ・多くの方に活動を周知いただくひとつの機会となっている。
- ・大学の窓口が明確となり、問い合わせがしやすくなった。

大学生版 災害ボランティア講座



6月29日（木）、京都市社会福祉協議会の協力のもと、大学生版災害ボランティア講座（実践講座）を開催しました。参加者は10名でした。

講座では、災害ボランティアセンターの目的や運営の基本、また京都市における災害ボランティアセンターについての講義を受け、その後、演習として災害ボランティアセンターの運営役と参加ボランティア役に分かれ、災害時のボランティア参加についてのロールプレイングを行いました。災害の場面ではまず安全の確保が重要で、より丁寧に確認しなければならないことが多く、参加者たちは役割の大変さを実感しているようでした。

参加者からは「実際に演習をさせていただき、災害時に何をすべきか参考になった」といった感想が多く寄せられました。

【学生レポート】

法学部法律学科3年次生 片山 優

日本で多種多様な災害が起こる中で、何か私にできることがないかと思い、今回の講座に参加しました。

講義では、災害ボランティアサポーターは実際に被災者の元へ伺い支援を行うだけでなく、一般のボランティアに来た方の登録等、活動を円滑に運営するための役目も担っていることを知りました。

実践訓練では、特に被災者の方からの依頼を電話でお受けすることが難しかったです。被災者をこれ以上疲弊させないことを第一に配慮しつつ、ボランティアの安全が確保される場所か、対処できる依頼かどうか、実際に現場が見えない分うまく聞き取らなければなりません。こういったボランティアをしたことがない私にとって、講義だけではまだまだわからないことも多く、対応の難しさを痛感しました。



九州北部豪雨災害義援金募金活動ボランティア

7月28日(金)～8月6日(金)、平成29年7月九州北部豪雨災害にかかる義援金募金活動を実施しました。期間中、平日のお昼休みに今出川校地の良心館前、京田辺校地の多目的ホール前にてボランティアによる呼びかけ活動を行いました。両校地合わせて、のべ85人の学生が募金活動ボランティアに参加しました。寄せられた募金の総額は35,306円となり、全額を日本赤十字社へ寄付しました。この活動は、学生から「何かできることをしたい」という声が上がりました。活動中は、声かけやチラシ配りなど率先して動く学生の姿が見られました。テスト期間中だったため人通りの少ない中でも、多くの方にご協力いただきました。募金にご協力いただいた皆様、温かいご支援に感謝いたします。

【学生レポート】

法学部政治学科2年次生 平野 萌々香

九州北部豪雨災害により、被害を受けた方々のために少しでもご支援できればと思い、この活動に参加させていただきました。私の所属しているボランティアサークルASUVIDでは、直接現地へ向かい様々なことをお手伝いさせていただいたのですが、私を含め行きたくても行けないサークル員もいました。そこで、現地に行かなくても何か力になることができるこの活動に参加しました。私たちが呼びかけることで足を止め、協力して下さる方々を見て、人と人とのつながりを感じられ、本当にいい経験になりました。



【学生レポート】

心理学部心理学科1年次生 木原 陽子

私はEggというボランティアサークルに所属しており、そこでは子どもたちと関わる活動が多いのですが、違ったボランティアも体験してみたいと思い、今回の活動に参加しました。足を止めて募金していただいたり「頑張ってください」と声をかけたりしてくださって、嬉しかったです。また私自身も、小さなことでも実際に行動することで、テレビなどを通して遠く感じていた災害について真剣に考えることができたと思います。



京都市総合防災訓練 災害ボランティアセンター 運営ボランティア



9月2日(土)、東寺でおこなわれた京都市総合防災訓練に本学学生7名が参加しました。この活動は「大学のまち京都 災害ボランティアに係るパートナーシップ宣言」の取り組みの一環として、京都市内で災害が発生した際、大学生が災害ボランティアセンターの設置・運営をし、また京都市外で災害が発生した際には、災害ボランティア活動などのリーダーとしての役割を担うものです。学生は、災害ボランティアセンターの運営スタッフとして「コーディネート役」と「資材の貸し出し役」に分かれ訓練を行いました。6月に学内で開催された「災害ボランティア講座」にも参加していた学生からは「講座で学んだことをより実践に近い形で再現することができてよかった」という感想を聞くことができました。

【学生レポート】

商学部商学科3年次生 増永 美結

近年、多くの犠牲を伴う様々な自然災害が起こっています。災害への対策に重要性を感じたことが、ボランティア参加へのきっかけです。今回、ボランティアの人と支援が必要な人を繋ぐ為の活動に参加しました。私はボランティアの方の受付担当で、ボランティア保険加入済かの確認や名札・パンフレットの配布等を行いました。災害発生時には沢山の方がボランティアとして現地に来てくださるそうです。そのボランティアの方々はどう動いて頂ければ、いち早い復興に繋がるのかを今回学びました。

同志社つながる@カフェ

ボランティア支援室学生スタッフ ARCO による「同志社つながる@カフェ」を年間を通して実施しました。「同志社つながる@カフェ」は、地域と学生の出会いの場を創出することをコンセプトに、地域で活動するさまざまな方々と出会い、気軽に情報交換のできる場として、上京区役所、上京区社会福祉協議会の協力のもと企画しています。今年度は全4回実施し、地域で行われるイベントや、地域が抱える課題について学び、意見交換を行いました。

参加者にとって初めて知ることもあったようで、ゲストスピーカーの話に興味深く聞く学生の姿が印象的でした。学生が地域に関心を持ち、ボランティアとして関わる機会が増えるよう今後も継続して実施していきます。

○実施日・実施テーマ（参加者数）

5月26日（金）第7回「地域のお祭りとボランティア～祇園祭のごみ問題を解決しよう～」（12名）

7月12日（水）第8回「子どもの貧困を考える～子ども食堂の事例から～」（11名）

11月11日（土）第9回「ARCOと歩こう！大学周辺てくてくツアー」（5名）

1月10日（水）第10回「上京区でできる国際交流～広げよう！外国人と地域の輪～」（8名）



【学生レポート】

文学部文化史学科1年次生（ボランティア支援室学生スタッフARCO） 河田 和香

私は同志社つながる@カフェの企画・運営を通して、その「責任」の重さを実感しました。上京区役所さんと上京区社会福祉協議会さんとの会議やゲストスピーカーさんとの日程調整の過程を実際に体験し、自分たちの力だけで実施できる企画ではないことが身に染みたからです。同志社つながる@カフェは学生スタッフ ARCO の基幹事業ですが、様々な機関・団体のご協力のもとに成り立っている企画であり、自分たちだけで完結するものではありません。「責任」をもって企画・運営していく必要があると同時に、貴重な体験だとも思うので、同志社つながる@カフェに携われることに感謝しながら、一生懸命活動していきたいです。

【学生レポート】

文学部哲学科1年次生 笠原 健司

私は「祇園祭ごみゼロ大作戦」という取り組みに興味があり、それがどういった活動であるのかを知りたいと思い参加しました。祇園祭の概要から、近年の祭り期間中に出るごみの増加の問題、それを解決すべく数年前から行われる「ごみゼロ大作戦」とその成果を説明してくださいました。私は活動で削減された量に驚き、さらにその活動が学生を中心としたボランティアによって行われていることに感動しました。「ごみゼロ大作戦」に参加し、充実した取り組みの一助となれたことは貴重な経験となりました。

ちよいボラ～学生スタッフ ARCO とボランティアに行こう！～

10月21日(土)・22日(日)・29日(日)・11月12日(日)の全4日間、ボランティア支援室学生スタッフ ARCO による「ちよいボラ」を実施しました。「ちよいボラ」とは、ボランティアに興味はあるけど1人で参加するのは不安…と思っている学生に、学生スタッフ ARCO と一緒にボランティア活動に参加してもらおうという企画です。ボランティアの活動内容はイベント運営の手伝いで、学生たちは来場者の誘導や抽選会場の補助などをおこないました。

どのイベントも、地域の方を中心に多くの方が来場され、地域に愛されているイベントであることを再認識しました。また、学生にとっては普段なかなか関わることのできない地元密着型のイベントにボランティアスタッフとして関わることで、住民の手で行われている地域活性化の取組を知ることができたとともに、地域の方との出会い・交流をもつことができ、貴重な機会となったようです。

○実施日・実施テーマ(参加者数)

10月21日(土)「ほほえみ広場2017」

障がいのある人もない人も一緒に楽しめる様々な催しが行われるイベント(9名)

10月22日(日)「千本100円商店街」

商いの町として伝統ある西陣千本通りを盛り上げるために開催されているイベント(6名)

10月29日(日)「上京区民ふれあいまつり2017」

住民同士の交流とふれあいを深めるため開催されるイベント(20名)

11月12日(日)「西陣の朝市マルシェ」

地域をつなぐことを目的として、西陣児童公園で開催されるイベント(11名)



【学生レポート】

社会学部産業関係学科2年次生 川合 広大

地域の人々と交流できる機会があればいいなと思っていたところに、西陣の朝市マルシェのボランティアがあることを知って、参加させていただきました。当日、ボランティア参加者は会場内の各ブースにわかれて、「野菜を売るブースなら、販売の手伝いをする」という風に各ブースの手伝いをするのが主なボランティアの内容で、私はマルシェの担当の方のところにくじ引きをするブースの手伝いをしました。くじ引きのブースの店番をしていると、地域の方々がくじをひきにきてくださり、みなさんの商品も嬉しそうに受け取っていかれました。お客さんもほかの店の方たちも親切で、非常に楽しく活動することができました。

【学生レポート】

社会学部教育文化学科2年次生 杉田 晴希

普段、学生生活を送っている自分の知らないところで、地域ではどんなことが行われているのだろうと思い、「ほほえみ広場2017」のボランティアに参加しました。はじめに、私は着ぐるみに入って会場内を回り、来場された方やブースの方に手を振ったり、写真撮影に応じたりして、ふつうに顔を出すのとはまた違ったコミュニケーションをとれたことが印象に残りました。その他にも、会場での対応や整備などを行い、初めての場で多くの方と新たに出会い、やりとりできたことが大きな収穫でした。

和東のお茶を守ろう！茶畑ボランティア

体験ボランティアプログラム「和東のお茶を守ろう！茶畑ボランティア」を、年間を通して実施しました。体験ボランティアプログラムとは、「ボランティアに興味はあるけれど参加するきっかけがない」「一歩踏み出すのに勇気がある」といった学生を対象に実施する、ボランティア支援室主催のプログラムです。昨年度から引き続き、京都府南部にある和東町にて活動を行いました。今年度の活動は、5月のお茶の収穫時期にあわせて開催されたお茶の収穫イベントのお手伝いを行い、9月には荒廃地の復旧作業や和東茶の魅力を伝えるイベント補助を行いました。11月に開催される「茶源郷まつり」では、和東茶を使ったスイーツ開発をするコンテストのイベント補助を行いました。そして12月には、もっと多くの人に和東や和東茶の魅力を知って欲しいという思いから、学生の提案で「ほっこりサークル」会長の植田さんを大学に招きお茶のふるまいと講演会を行いました。体験ボランティアプログラムに参加した学生は学部・学年・性別もバラバラで、このプログラムで初めて顔合わせをした人がほとんどでしたが、一緒に活動していく中で打ち解け、協力して活動する姿が見られました。これらの活動に参加した学生からは「今回の経験をただの体験で終わらせてはいけません。自分にできることは何か考えたい」「お茶を中心に、和東の魅力を身体とところで感じる事ができた」という感想がありました。



○実施日・実施内容（参加者数）

5月13日（土）～14日（日）体験ボランティアプログラム第2弾
「茶源郷和東“満喫”イベント」補助スタッフ
（4名）

9月30日（土）～10月1日（日）体験ボランティアプログラム第3弾
「秋の大収穫祭」補助スタッフ
荒廃地の復旧作業（10名）

11月5日（日）体験ボランティアプログラム第4弾
茶源郷まつりにて「和東茶を使ったスイーツコンテスト」補助
スタッフ（7名）

12月15日（金）和東茶フェア お茶のふるまい／講演会（約250名／8名）



【学生レポート】

経済学部経済学科4年次生 奥村 昭仁

私は大学生生活の殆どを体育会の活動に捧げてきましたが、就職活動を経て、部活以外の価値観を持つ人達と関わる必要性を感じ、ボランティアに参加しました。

私にとってボランティアは理解し難い行為で、自分に無縁だとも思っていました。しかし、実際に活動し、他のボランティアの方々と話すうちに、人に貢献する楽しさややりがいを知りました。また、「多くの人の支えがあって今の自分があるのだ」と痛感し、反省することができました。

多くの方々にボランティアを経験してほしいです。きっと価値観が変わります。

【学生レポート】

グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科英語コース1年次生 篠崎 桃子

茶道を長年続けており、お茶にふれる機会は多くありましたが、お茶がどのようにして私のもとに届いているのかを自分の目で見たり、手で摘んだり、ということは今までなかったです。茶農家の方からお話を聞いたり、荒れた茶畑の草抜きをしたりする中で、高齢化や後継者の問題など、多くの課題が見えてきました。このボランティア活動を、「良い経験が出来てよかった」で終わらせないことが、私にもできる和東町のためになることだと感じました。

田舎の生活を体験！宿泊型スタディツアー in 和束町

体験ボランティアプログラム「田舎の生活を体験！宿泊型スタディツアー in 和束町」を2月14日(水)～15日(木)と3月14日(水)～15日(木)の2クールにわけて実施しました。地域活性化の取り組みのひとつとして、一般財団法人 和束町活性化センターが行っている農業生活体験(民泊)に、モニターとして本学学生計28名が参加しました。

茶畑景観散策や和束町の現状についてのお話・茶農家さんの生の声を聞いて、和束町の魅力や課題について考える機会となりました。民泊では、一般のご家庭に一晩お世話になるという普段の学生生活ではできない貴重な体験ができ、和束町の方の温かさに触れることができました。プログラムに参加した学生からは「地域のことについて考えるよいきっかけになった。自分の地元のことについても考えてみたい」といった感想がありました。



【学生レポート】

グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科アメリカコース1年次生 赤羽 春香

私の地元の隣にある和束町のことを私は意外と知らなかったもので、知りたいなと思いついて今回の企画に参加しました。民泊でお茶農家の方と一晩暮らしてみても、私たちの暮らしとそんなに変わらないことにも驚きましたが、人々の温かさを直接感じられる良い機会だと思いました。町の職員さんや、農家の方など、いろんな方の話や町への想いを聞くことで、「地域」の在り方を考えさせられました。

同志社大学のお兄さんお姉さんとあそぼう～夏休みのしゅくだい・仕事をしよう～



8月5日(土)、烏丸キャンパス志高館ラウンジにて、ボランティア支援室学生スタッフ ARCO による「同志社大学のお兄さんお姉さんとあそぼう～夏休みのしゅくだい・仕事をしよう～」を開催しました。参加者は学生が3名、小学生が28名でした。

この企画は、例年学生スタッフ ARCO が企画・実施している四季体感イベントです。近隣の小学生を同志社大学へ招待して、交流を図り、地域と大学がつながる場とすることを目的に実施しています。

今回の企画は、小学生の宿題のサポートや、工作・ゲームで交流を深めました。一人では苦手ではなかなか進まない宿題も、大学生とやることによって一緒に進めることができ、持ってきた宿題を終わらせる小学生も多くいました。初めは緊張していた小学生たちも、一緒に過ごすことで大学生とも打ち解け、自分から関わっていく様子が多く見られました。

【学生レポート】

社会学部教育文化学科1年次生 大河 彩

私は教育課程の科目を履修していて、実際に子どもと触れ合えるような経験を積みたいと考え、今回のボランティアの活動に参加させていただきました。このボランティアに参加する前は、子どもと関わる機会がなくどのように子どもと触れ合えば良いのか、どれくらいの距離感で接すれば良いのか分からず不安でいっぱいでした。しかし、初対面の子どもたちが積極的に話しに来てくれたり、一緒に遊んだりしてくれて、活動前の不安は一瞬にして消えました。子どもたちが夏休みの宿題を一生懸命に頑張る姿や、無邪気に笑いながら遊ぶ姿を見て、共通した子どもらしさを感じながらも、一人一人の個性を見ることができ、私自身も成長できたように感じました。

寒梅館夏まつり

8月26日(土)、今出川校地学生支援課主催の「寒梅館夏まつり」が開催されました。「寒梅館夏まつり」とは、同志社大学のクラブやサークルに所属する学生が、地域の子どもたちとの交流を目的とするイベントです。ボランティア支援室では、学生スタッフ ARCO の企画運営で「かみぎゅうくんの夏まつり - わなげ・パズル屋さん -」を開催し子どもたちと交流しました。またアトリウムスペースに設けられた特設ステージでは、学生スタッフ ARCO の進行で、上京区や同志社大学にまつわるクイズ大会「かみぎゅうくん、Ben-K さんのゆるゆるクイズ大会」を開催しました。かみぎゅうくん、Ben-K さんも一緒にステージを盛り上げてくれました。当日は学生スタッフ ARCO のほか、クラブ・サークル 12 団体約 180 名の学生がスタッフとして全体のイベントを運営し、子ども、保護者合わせて約 320 名の参加者に来場いただきました。



【学生レポート】

政策学部政策学科1年次生 (ボランティア支援室学生スタッフARCO) 向井 健人

寒梅館夏まつりは同志社大学のクラブやサークルに所属する学生が、子どもたちにむけて楽しいイベントをするというもので、ARCO も毎年参加しています。今年は輪投げ、パズルをすることになり、自分も参加することになりました。次々とくる子どもたちの対応は少し大変でしたが、頑張ってパズルをし、元気よく輪投げに挑戦する姿に元気をもらい、子どもたちだけでなく私自身も楽しく活動することができました。また来年も参加しようと思います！

京田辺のこども食堂で こどもと一緒にご飯を食べよう！



9月27日(水)と2月28日(水)に、京田辺市中部住民センターにて、1日体験ボランティアプログラム「京田辺のこども食堂で こどもと一緒にご飯を食べよう！」を開催しました。「ボランティアしたいけど、一人で参加するのは難しい」などの不安がある学生に向けて、地域のボランティア活動に1日体験として参加するプログラムです。参加者は計8名でした。

今回は、チームせせら goo が開催する、こども食堂スマイルダイニングへ参加しました。活動内容は、まず地域ボランティアの方々と夕食をつくり、その後小学生と一緒に夕食を食べ、勉強をするというものです。

参加した学生たちからは「ボランティア学生のサポートがありがたかった」「子どもにありがとう、また会いたいと言ってもらえて嬉しかった」などの感想がありました。

【学生レポート】 グローバル・コミュニケーション学部

グローバル・コミュニケーション学科英語コース4年次生 林 優希

日常生活では全く子どもたちと接することがないため、この機会に子どもたちが普段どんなことを考えているのか知りたくて、今回の企画への参加を決めました。初めは子どもたちを前にして緊張してしまい、なかなか打ち解けて触れ合うことができませんでしたが、最後には仲良くなり、一緒に動物の絵を描いてそれに名前をつけるといった遊びをして盛り上がりました。「上手く接することができず、申し訳ない…」と思うようなこともありましたが、子どもたちの笑顔に救われました。

梅小路公園で昔遊びをしよう！

10月28日(土)、梅小路公園にて、1日体験ボランティアプログラム「梅小路公園で昔遊びをしよう！」を開催しました。参加者は6名でした。

今回は、梅小路プレイパークという地域団体の方々が、この日おこなわれる「やんちゃフェスタ」に出店されるということで、その出店ボランティアに学生たちが参加しました。

参加した学生からは、「子どもと楽しくスーパーボール、けん玉、輪投げ、駒回し出来てよかった！」「参加した学生との交流と、活動した団体の方との交流、子どもたちとの交流など、色々な方に出会えて、やる前に想像していなかったところでの楽しみがあった」などの感想がありました。

【学生レポート】

経済学部経済学科1年次生 西口 菜帆

ボランティアは誰かの役に立つことができ、かつ自分にとっても良い経験になると思い、また私は子どもが大好きだったので、今回の企画に参加させていただきました。子どもたちと昔遊びをする企画で、けん玉、駒回し、フラフープ、スーパーボール作りをしました。子どもたちだけでなく、児童館の先生方や親御さんとも話す機会があり、多くの方と触れ合えました。子どもたちは自ら新しい遊びを考えていました。子どもたちが笑顔になってくれたときが一番嬉しかったです。



ミニチュアクリスマスツリーを作ろう！

12月16日(土)、ボランティア支援室学生スタッフ ARCO による「四季体感イベント～ミニチュアクリスマスツリーを作ろう～」を実施しました。今回の企画は、ゲームを通して交流を深め、ミニチュアクリスマスツリーを小学生と一緒に工作するというものです。参加者は、学生が12名、小学生が9名とそれぞれ同じくらいの割合だったため、ひとりひとりと関わることができていました。松ぼっくりやビーズ等で作ったクリスマスツリーに小学生も大喜びで、「優しく教えてくれて嬉しかった」「また遊びたい」との感想を聞くことができました。

【学生レポート】

社会学部社会学科1年次生 鶴井 桃佳

子どもが好きで、ボランティアにも興味があったので、今回の企画に参加させていただきました。ボランティアに参加するのは初めてだったので、不安しかありませんでした。最初はどうやって子どもたちに接しようかと考えていましたが、子どもたちに話しかけると、おしゃべりな子が多く、色々な話をしてくれ、打ち解けることができました。伝言ゲームでは小学生ならではのユニークな発想が出てきたり、なんでもバスケットでは一緒にやっではしゃいだり、子どもたちの元気な姿にパワーをもらいました。今回を機にまた、ボランティア活動に参加してみようと思うようになりました。



巨大すごろくで子どもたちと遊ぼう！

3月17日(土)、京田辺キャンパス多目的ホールにて、「巨大すごろくで子どもたちと遊ぼう！」を実施いたしました。これは、京田辺校地の同志社ボランティアネットワーク(通称V-NET)に所属する、スポーツボランティア団体Eggと同志社生涯スポーツ研究会～DUALSport～が共同で開催した企画です。他団体と協同することで、普段なかなかできない規模の大きい遊びを、小学生が大学生と一緒に体験し、遊びを学びにするという趣旨で行われました。当日は25名の小学生が参加しました。

参加した学生からは「集団の中で、1つ自分の役割を持って”作り上げる”過程に関われたことで、充実感が得られた」「子どもたちが終わった後に“楽しかった、また来年も来るね”と言ってくれたのが、とても嬉しく印象的だった」「子どもたちだけでなく、自分たちも楽しめた」などの感想がありました。

【学生レポート】

理工学部機械システム工学科2年次生(スポーツボランティア団体Egg所属/企画者) 伊達 洵希

今回、子どもたちに普段卓上で見ているすごろくが巨大化し、自分が実際にその中に入ってゲームをするというワクワクを味わってもらうため巨大すごろくを企画しました。子どもたちには止まったマスに書かれているミニゲームをしてもらい、その結果に応じてお金を得るという仕組みで進めました。マナークイズのマスをつくるなどゲームを楽しむ中で子どもたちに成長してもらえそうな工夫もし、どのマスのゲームも喜んでもらえ、また二人一組で協力してゲームを進めてくれる姿も見られ非常に良かったと思います。



ちよいボラ～大学周辺清掃活動ボランティア～

6月27日(火)「ちよいボラ～大学周辺清掃活動ボランティア～」を実施しました。参加者は5名でした。今回は新町キャンパス周辺、今出川キャンパス北門と相国寺間の道、今出川中門を中心に清掃活動を行いました。ごみが多く見られたのは、新町キャンパス近くの公園と自動販売機の周辺でした。人の目につきにくい場所や、元からごみが捨ててある所に新たに捨てられていることが多く、参加者は「ごみが捨てにくい環境づくり」が大切だと実感しているようでした。

【学生レポート】

法学部法律学科3年次生 中田 拓也

私はボランティアサークルを自分で立ち上げたことから、ボランティアに興味を持つようになり、ボランティア支援室の紹介で今回のボランティアに参加しました。当日は大学のキャンパス周辺の道路や公園といった、人々がよく利用する場所に落ちているごみを拾うという活動を行いました。私が予想していたよりもごみは少なく、綺麗にされていたのは嬉しく思いました。ただ公園はタバコの吸殻のポイ捨てなどが多く、残念に思いました。このような活動を通して、普段あまり気に留めない足元のごみにも注目して、社会がどうあるべきか、自分はどうすべきなのかを考える人が少しずつ増えていってほしいです。



祇園祭ごみゼロ大作戦

7月15日(土)～16日(日)、ボランティア支援室で募集した学生71名が「祇園祭ごみゼロ大作戦！」に参加しました。祇園祭は、排出されるごみが年々増え続けています。そこで「祇園祭ごみゼロ大作戦！」は、散乱ごみの回収と、屋台で使用する使い捨て食器をリユース食器に切り替える活動をしています。

ボランティアスタッフとして参加した学生は、リユース食器の配布、エコステーションの運営、拾い歩き回収、拠点運営といった活動をしました。

学生からは、「暑くて大変だったけど、お客さんに声をかけると『ありがとう』や『お疲れさま』といった言葉が返ってきて嬉しかった」などの感想がありました。

【学生レポート】

文化情報学部文化情報学科1年次生 香川 隆仁

祭りが終わったあとよくごみが散らかっているのを見て、少しでもきれいになればよいと思い、今回参加させていただきました。地方の小さな祭りでも大量のごみが出ますが、祇園祭のごみの量は比べられないくらい多かったです。しかし自分たちがごみを回収することで路上に落ちているごみが少なくなっているのを見るとすごく達成感があります。祭りに参加している人たちに「ありがとう、がんばっているね」と声をかけられたりと、多くの人とのコミュニケーションがとれました。

今回参加してごみの回収の大変さを知ること、一人ひとりの意識が大切だと改めて思うことができました。



祇園祭ごみゼロ大作戦ボランティアリーダー募集事前説明会

2月1日(木)に室町キャンパス寒梅館地下A会議室、8日(木)に京田辺キャンパス恵道館104教室にて、「祇園祭ごみゼロ大作戦！ボランティアリーダー募集事前説明会」を開催しました。参加者は計9名でした。

事前説明会では、まず「ごみを減らすには?」「リーダーとして重要な要素は?」というテーマについて、グループワークをおこない、その後、講師の方にボランティアリーダーの役割についてお話を伺いました。

参加した学生からは、「グループで活動するのが楽しかった」「活動だけでなく、活動準備まで分かったのでよかった」などの感想がありました。

【学生レポート】

法学部法律学科1年次生 磯貝 泰知

去年、祇園祭ごみゼロ大作戦のボランティアに参加した際、ボランティアリーダーの方が活動しているのを見て、興味を持ったので参加させていただきました。

ごみを減らすにはどうしたら良いか、リーダーに必要な力についてグループワークをした後、祇園祭ごみゼロ大作戦の取り組みやボランティアリーダーの仕事などについて説明を聞きました。

ボランティアリーダーになるには様々なことを学び、様々な経験を積むことが必要だと知って驚きました。ボランティアリーダーの経験は、これからの人生にとってきっと役に立つと感じました。



国際ボランティアってどんなの?～有意義な夏休みのために～

6月20日(火)、今出川キャンパス良心館106教室にて、「国際ボランティアってどんなの?～有意義な夏休みのために～」を開催し、14名が参加しました。この企画は、国際ボランティアをしたい学生や海外で活躍したい学生へ向けて、日本国際ワークキャンプセンターNICEの取組みや、プログラムに参加した先輩の体験談を紹介するセミナーです。

今年度は、各国でのリノベーションワークや農地の開墾、スラム街での生活支援、森林保護、英語教育といった活動の体験談を紹介しました。その後は、グループに分かれてフリートークの時間を設けました。

参加者からは「それぞれの体験談を聞いてよかった」「フリートークの時間に質問できてよかった」などの感想がありました。



【学生レポート】

商学部商学科4年次生(体験談発表者) 諏訪 ほか

私は国際ボランティアに参加し、人との出会いを通して自身の様々な考え方が変わることが国際交流の魅力だと気づき、その後の学生生活の活動のきっかけになる経験になりました。そのことを少しでも多くの後輩に伝え、国際ボランティアの魅力を感じてもらいたいと思い、報告会に参加しました。このセミナーをきっかけに一歩踏み出す方がいたら嬉しいです。そして、短期間でできることは少しでも、少し動くことが人の手助けになると思うので、多くの方に国際ボランティアに参加してもらいたいです。



JICA ボランティアセミナー～青年海外協力隊で海外へいこう!～

6月27日(火)に京田辺キャンパスローム記念館劇場空間、28日(水)に今出川キャンパス良心館305教室にて、「JICA ボランティアセミナー～青年海外協力隊で海外へいこう!～」を開催し、計63名が参加しました。

この企画は、国際協力に興味がある学生や、協力隊に参加してみたい学生を対象に、青年海外協力協会の方と、青年海外協力隊員の方を講師としてお迎えし、制度や活動の体験談を伺うセミナーです。今年度は、ジブチ共和国でコンピューターの技術協力活動をされた方と、ウガンダ共和国でネリカ米の普及活動をされた方の体験談を伺いました。

参加者からは、「実際に経験した方の具体的なお話が聞いて、理解を深められました」という感想がありました。



【学生レポート】

理工学部環境システム学科1年次生 高木 のあ

私は、「JICA ボランティアセミナー～青少年協力隊で海外に行こう～」という企画の説明会に参加しました。私は子どもの頃から海外旅行に行く機会が多く、それを毎回楽しみにしていました。しかし、私が見ていた海外での景色はどこの国でもいつも同じ様でした。ただ、観光客であふれていました。だからボランティア活動に参加して、現地の人々のごくありふれた生活を見たかったです。説明会のお話を聞いて年齢制限に引っかかることにまず気づきました。しかし、実際に経験者のお話を聞いて、覚悟を持って私の持っているものの何が現地の人の支援になるか考えることが大事だと思いました。

【スキルアップ講座】 Vol.2 企画のつくり方講座

9月20日(水)、今出川キャンパス良心館410教室にて「スキルアップ講座 Vol.2 企画のつくり方講座」を開催しました。「スキルアップ講座」とは、ボランティア活動に取り組んでいる学生や学内ボランティア団体などを対象に、活動に活かせるスキルを学ぶ場を提供する講座です。参加者数は14名でした。

今回は、講師に川人ゆかり氏(合同会社ミラマール代表社員/カノホナヒューマンリソース株式会社執行役員)をお迎えし「ゼロから学ぶ企画作り～ノリと勢いからの脱却～」というタイトルで、企画の作り方について学びました。企画づくりの基本について説明があり、その視点に沿って、事例の紹介をしていただきました。参加した学生からは、「企画≠目的というのが印象的で企画して終わりではなく、何かを達成するための企画という意識が大切だと知った」という感想が寄せられました。



【学生レポート】

政策学部政策学科3年次生 橋本 有加

履修しているプロジェクト科目で、企画について悩んでいたため、少しでも参考になればと思い、参加させていただきました。実際にイベントを沢山企画しておられる社会人の方に来ていただいて、企画する際に考えるべきことやどうしたら企画に参加する側にとって充実したものになるかなどのレクチャーを受けました。単に楽しいものを企画するだけでは不十分で、どのようにお金を循環させるかや、企画実行において考えられるリスクなどを洗い出すことが重要である、というのが私にとっての大きな気づきでした。

代表挨拶

社会学部社会学科4年次生 北浦 真成

私たちは学生のボランティア活動を活性化させるため、地域と学生の「架け橋」となって活動しているボランティア支援室の学生スタッフです。大学に寄せられるボランティア活動の紹介や相談の受付、独自のボランティアイベントの企画・運営などを行なっています。

本年度は既存の企画に加え、より学生がボランティアに親しめるような「ちょいボラ」「出張ボランティア支援室!!」「突撃！ボランティア支援室！」などの企画を行うことで、活動の幅に広がりがありました。発足3年目を迎える次年度も、少しでも多くの学生がボランティアを通じて社会に貢献できるような取組を提供していきたいと考えています。



新入生歓迎イベント



政策学部政策学科3年次生 岡本 祐樹

今年度の新歓は3つの行事を行いました。4月2日(日)～6日(木)に実施した「ボランチ」では、新入生とARCOメンバーが交流しながら、ボランティアの概念や活動について紹介し、楽しい時間を過ごしつつ、活動への理解を頂けたと思います。4月8日(土)には鴨川にて「ボハナミ」を開催しました。時折雨が降る不安定な天候の中、12名の新入生に参加いただきました。鴨川周辺の清掃とお花見の際には雨が上がり、参加いただいた新入生と交流しながらボランティア活動を行うことで、有意義な時間を過ごすことができました。4月15日(土)には、「ARCOと歩こう！大学周辺てくてくツアー」を開催しました。当日は断続的に雨が降る中、9名の新入生に参加いただきました。降雨が激しくなったため、まち歩きを行うことは叶いませんでしたが、ゲストスピーカーの方々のご講演やコースマップを用いたすごろくを通して、大学周辺の歴史や名所を学ぶことができ、非常に有意義な時間となりました。

合宿

グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科アメリカコース2年次生 鈴木 祐輔

今年度は8月と2月に合宿を行いました。夏合宿は8月29日(火)～30日(水)の日程で兵庫県美方郡の美方高原自然の家にて行いました。4年次生からARCOの理念等について再確認があり、ARCOの根幹となっているものを学びました。また、春合宿は2月20日(火)～21日(水)の日程で同志社びわこリトリートセンターにて行いました。次年度へ向けての体制の確認やスキルアップを目的として行い、各々が責任をもってARCOに関われるようにメンバー同士で考える貴重な時間を過ごすことができました。



勉強会



政策学部政策学科1年次生 長尾 早希子

12月12日(火)のミーティングで、私の所属するスキルアップ班が企画した、外部講師の方をお招きして、合意形成の方法について、勉強会をしました。前半は、ミーティングに対するARCOメンバーの意識を確認し、後半は、合意形成の方法について学んだ後、実際に合意形成をはかるワークを行いました。合意形成のワークを実際に行ってみて、少数の意見を尊重する難しさを感じました。普段、多数決で決めてしまうことも多かったので、もう少し班の中で話し合っ、全員が納得する方向にできるようなミーティングをしようと思いました。

出張ボランティア支援室!!～この冬、ボランティア始めませんか?～ 突撃!ボランティア支援室! Vol.1 ～ボランティア支援室知っていますか?～

グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科アジア・太平洋コース1年次生 廣野 功氣

ARCO では、普段ボランティア支援室を利用しない学生層を対象として、「出張ボランティア支援室!!～この冬、ボランティア始めませんか?～」と「突撃!ボランティア支援室! Vol.1～ボランティア支援室知っていますか?～」を実施しました。「出張ボランティア支援室!!」では、良心館にボランティア相談のブースを設置し、4日間で10名の学生に訪れてもらうことができ、「突撃!ボランティア支援室!」では、ボランティア支援室の認知度を計るためにアンケートを実施し、257名もの学生に協力してもらうことができました。アンケートに対する回答では「ボランティア支援室を知らない」という人が6割を超え、ブースを訪れた学生の中にも、ボランティア支援室を知らなかった人、たまたま通りがかった人もいました。学生の多い良心館や人通りの多い場所で活動を行うことで、より多くの人にボランティア支援室を知ってもらう良い機会になったのではないかと思います。

活動期間中は多くの学生にボランティアの紹介ができ、学生スタッフとしても一般学生の声を聴くことのできる活動となりました。



大学ボランティアセンター学生スタッフリーダーセミナー 2017

法学部法律学科2年次生 西村 美咲

2月8日(木)～9日(金)に、リーダーセミナーに参加しました。このセミナーには、東北から九州まで、全国の各大学ボランティアセンターの学生スタッフのリーダー層が参加していました。

関わったことのない人と一緒にワークをし、同じ部屋に泊まり、多くの時間を共有することに当初はとても不安でした。しかし、一緒に時間を過ごす中で、合意形成ワークや、リーダーに必要なものは?というワークで新たな発見をし、休み時間や交流会では同じ思いを持った人を見つけることができ、とても有意義な2日間を過ごすことができました。

普段はなかなか会うことのできない人と出会うきっかけであり、今後活かすことができるであろう様々なことを得られたこのセミナーは、私にとって忘れられないものとなりました。



＝ ARCO 活動実績 2017 年度 ＝

4月6日(木)	V-NET 新歓交流会@今出川を実施
4月8日(土)	新入生歓迎イベント「ボハナミ」を実施
4月15日(土)	新入生歓迎イベント「ARCO と歩こう! 大学周辺てくてくツアー」を実施
5月13日(土)～14日(日)	ボランティア支援室主催【体験ボランティアプログラム第2弾】和東のお茶を守ろう! 茶畑ボランティアに参加
5月26日(金)	第7回同志社つながる@カフェ「地域のお祭りボランティア～祇園祭のごみ問題を解決しよう～」を実施
6月27日(火)	ちょいボラ ～大学周辺清掃活動～を実施
7月12日(水)	第8回同志社つながる@カフェ「子どもの貧困を考える～子ども食堂の事例から～」を実施
8月5日(土)	「四季体感イベント 同志社大学のお兄さんお姉さんとあそぼう～夏休みのしゅくだい・工作をしよう～」を実施
8月26日(土)	寒梅館夏まつりにて「かみぎゅうくんの夏まつりパズル・わなげ屋さん」ブース設置
8月29日(水)～30日(木)	ボランティア支援室学生スタッフ ARCO 夏合宿実施
9月31日(土)～10月1日(日)	ボランティア支援室主催【体験ボランティアプログラム第3弾】和東のお茶を守ろう! 茶畑ボランティアに参加
10月21日(土)	ちょいボラ ～学生スタッフ ARCO とボランティアに行こう!～「ほほえみ広場 2017」を実施
10月22日(日)	ちょいボラ ～学生スタッフ ARCO とボランティアに行こう!～「千本通 100 円商店街」を実施
10月28日(土)	ちょいボラ ～学生スタッフ ARCO とボランティアに行こう!～「上京ふれあいまつり 2017」を実施
11月11日(土)	第9回同志社つながる@カフェ「ARCO と歩こう!～大学周辺てくてくツアー～」を実施
11月12日(日)	ちょいボラ ～学生スタッフ ARCO とボランティアに行こう!～「西陣マルシェ」を実施
12月5日(火)～8日(金)	出張ボランティア支援室!!～この冬、ボランティア始めませんか?～を実施
12月5日(火)～8日(金)	突撃!ボランティア支援室 vol.1～ボランティア支援室知っていますか?～を実施
12月16日(土)	「四季体感イベント ミニチュアクリスマスツリーを作ろう!」を実施
1月10日(水)	第10回同志社つながる@カフェ「上京区でできる国際交流～広げよう! 外国人と地域の輪～」を実施
2月8日(木)～9日(金)	大学ボランティアセンター学生スタッフリーダーセミナー 2017 に参加
2月20日(火)～21日(水)	ボランティア支援室学生スタッフ ARCO 春合宿実施
3月2日(金)～4日(日)	第6回「学生ボランティアと支援者が集う全国研究交流集会」学生ボランティアフォーラムに参加

V-NET 新歓交流会@今出川

4月6日(木)、今出川キャンパス良心館ラーニング・コモンスプレゼンテーションコートにて、V-NET 今出川主催「V-NET 新歓交流会」を実施しました。この企画は、今出川校地の同志社ボランティアネットワーク(通称 V-NET)に加盟する5団体と学生スタッフ ARCO が共同で企画・運営を行ったものです。今回は19名の学生が参加しました。

各団体の活動紹介の後は、団体ごとのブースに分かれ、参加者に対してさらに詳しい活動紹介や質疑応答などを行いました。どのブースも満席になり、中には全てのブースを回る参加者もいて大盛況でした。

参加者からは、「面白かった」「何かやってみたい気持ちになった」といった感想が寄せられ、実際に活動している先輩と話すことで、最初の一步を踏み出す大きな後押しになったようです。

【学生レポート】

グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科
アジア・太平洋コース2年次生(ASUVID 今出川所属) 田中 凜

V-NET での新歓交流会では、ボランティアに少しでも興味のある方と直接話すことができる貴重な機会でした。ASUVID の活動について、また私自身が行った活動について近い距離で話すことで、その人の反応を直接自分の目で見ることができました。実際私が行った活動に興味を持ってくださった方がいろいろな質問をしてくださり、熱心に聞いてくださる姿に、私自身も話していてとても楽しかったです。



ボランティアフェア～ V-NET 新歓交流会 2017 @京田辺～



4月25日(火)、京田辺キャンパスローム記念館劇場空間にて、「ボランティアフェア～ V-NET 新歓交流会 2017～」を開催しました。これは、同志社ボランティアネットワーク(V-NET)京田辺に所属する6団体が一堂に会し、主に新入生に対して活動紹介を行う新歓企画です。今回は17名の学生が参加しました。

活動紹介後は、各団体のブースに分かれて個別に質問や相談をできる時間を設けました。ブースでは参加者とサークルの担当者が活発に交流を行い、中には時間いっぱいまで質問をする参加者もいました。

参加者からは、「いろいろなサークルの話が聞けてよかった」「気になっている団体すべてに質問できてよかった」との感想がありました。

【学生レポート】

理工学部数理システム学科2年次生 山本 亞理紗

今年度初め、私は何か新しいことを始めたいと思い、ボランティアでもしようと思い立ちました。ちょうどその頃に V-NET の説明会があることを知り、参加してみることにしました。説明会では様々なボランティア団体の方々のお話を聞いたり、その方々と直接話すことで、自分に合ったボランティアを見つけることができました。この説明会がきっかけで、現在、V-NET 中の二つの団体に所属しています。どの団体の人もとても親切でよく相談にのってくださり、感謝しています。皆さま、ありがとうございました。



ボランティアフェア～V-NET 交流会～

10月20日(金)、京田辺キャンパスローム記念館劇場空間にて、V-NET 京田辺主催の「ボランティアフェア～V-NET 交流会～」を開催しました。この企画は、京田辺キャンパスのボランティアサークルが一堂に会して、活動紹介や交流を行います。

「ボランティアがしたいけど、どんなものがあるんだろう?」「何か新しいことを始めたい!」という学生に向けた活動紹介や、V-NET 所属サークル同士の交流を深めることを目的に実施しました。今回は29名の学生が参加しました。

参加学生からは、「各団体の具体的な話を聞ける良い機会になった」「自分の団体を見直すことができた」という感想がありました。

【学生レポート】

心理学部心理学科2年次生 (PAZMUSICA 所属) 前場 春菜

各団体の説明を聞いて、他団体の活動内容だけでなく、写真などから団体の雰囲気までも知ることができました。各団体と交流する時間では、参加率の問題や新入生勧誘などについてのサークルの悩みも共有できました。各団体が行なっている対策や解決策を知ることができ、今後の活動に活かしていきたいなと思いました。他団体の運営方法などを聞いて改めて、PAZMUSICAが行なっている音楽ボランティアの素晴らしさや大変さも知ることができました。



V-NET コラボ企画「1日体験入部」

V-NET コラボ企画「1日体験入部」として、11月3日(金・祝)に行われた国際居住研究会による全体ミーティングに4名が、12月10日(日)に開催された「京(みやこ)防災フェスタ2017」(同志社FASTが関わる防災イベント)に3名がV-NET 加盟団体から参加しました。この企画は「V-NET 加盟団体間の交流とお互いの活動に関する理解を深めるために団体間でメンバー交換を行いたい」という提案から生まれた企画です。普段参加する機会のない他団体の活動の様子や工夫を覗き見ることができ、短い時間の中にも多くの学びがありました。今回の体験入部で見聞きしたことや学んだことを、それぞれの団体に持ち帰って活動に活かすことで、V-NET 全体としての活動がさらに活性化し、発展することを期待しています。

【学生レポート】

グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科

ヨーロッパコース1年次生(学生スタッフARCO所属) 酒井 理紗

ARCOの一員として他のV-NET 所属団体と交流を深めたいと思い、同志社FASTがブース出店した「京(みやこ)防災フェスタ2017」に参加しました。そこには、楽しく防災を学び防災意識の向上を図るためのステージや展示・体験ブースなどがありました。同志社FASTのブースでは、日用品で災害グッズを作る体験に参加しました。他にも様々な体験を通して楽しく防災について学び、防災を身近に感じる事が出来ました。



V-NET 運動会

12月12日(火)、21日(木)の2日間、京田辺キャンパス多目的ホールにて、V-NET 京田辺主催の「V-NET 運動会」を開催しました。京田辺キャンパスのボランティアサークルが集まり、連携を深めていくために「まずはお互いを知りあう」ことを目的に、交流会を企画し、計49名の学生が参加しました。

参加者からは、「サークルを超えて話すことができ、嬉しかった」「各団体の活動内容が分かり、かつ大学生も楽しめる企画ばかりで感動した」「他団体の活動で自分たちの活動にも活かせることを見つけた」といった感想がありました。

【学生レポート】

スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科1年次生(同志社生涯スポーツ研究会～DUAL Sport～所属) 都築 優人

今回の運動会に参加したきっかけは、ほかのサークルとの交流を深めたいと思ったからです。僕たちのサークルでは、主に小学生を対象とした活動を行っていますが、僕たちと活動の対象が似ているサークルや少し違うサークルの活動がどういったものなのかを今回体験し、自分たちの活動を振り返って「この部分は取り入れていきたいな」と思うところが見つかり、参加してよかったと思いました。



国際居住研究会

活動内容

「私たちは世界の誰しにも可能性の開かれたフェアな社会の実現を目指します」という理念のもと、貧困地域の住居建築支援を行う「ハビタット」、フィリピンにのゴミ山周辺で暮らす女性や子供の支援を行う「ソルト」、バングラデシュの孤児院の支援を行う「ボンドゥ」、世界の農村リーダー育成を目指す「アジア学院」、国内の貧困などの諸問題にアプローチする「国内問題」の5つのプロジェクトに分かれて活動をしています。



【メッセージ】

社会学部メディア学科2年次生 松井 哲平

普段のミーティングに加え、長期休暇などに実際に国内外問わず様々な活動を行っています。メンバーの経験や参加動機は異なりますが、色々な形のボランティアに、本気で取り組むことができる環境があるのが魅力です。

STUDY FOR TWO (スタディー フォー トゥー)



活動内容

国際協力ボランティアって堅苦しそう…。でも私たちのサークルで必要なのは教科書だけなんです！寄付して頂いた中古教科書を半額で再販売し、その収益がラオスやバングラデシュの子どもたちの教育支援金となります。大学生は安価な教科書を、開発途上国の子どもたちは勉強道具をGETできる、教科書で繋がる教育支援 – そんな気軽に新しい国際協力の形もありますよ(^.^)♪

【メッセージ】

文学部文化史学科2年次生 畑山 智花

教科書の回収と販売という至ってシンプルな活動ですが、私たちの活動を通して喜んでくれる子どもたちがいます。国際協力がしたい！という強い思いが無くても、誰かが喜んでくれるなら、この活動を続ける意味はあると思います。(また、STUDY FOR TWO は同志社生の皆様のご協力のもと成り立つサークルです。今後ご支援のほど宜しくお願いします。)

学生団体 CHAD (チャド)

活動内容

私たちは毎年カンボジアの小学校を訪問し、様々なプロジェクトを行っています。昨夏の渡航では、設立当初から継続している運動会に加え、身近な人への感謝の言葉で1つの作品を作るといったアクティビティ、さらには図書も寄贈も行いました。渡航中はプノンペン大学の生徒と活動を共にし、プロジェクトを遂行しています。国内の活動では、支援費を募るために、地域のイベントに参加することもあります。



【メッセージ】

経済学部経済学科2年次生 梶 洋生

私たちは、これからも謙虚に、自分たちにできることを最大限していきます。たくさんの方に CHAD の活動を知ってもらい、たくさんの方の想いをカンボジアへ届けられたら幸いです。ぜひ一度 HP に足をお運びください。



学生団体 LUCKY (ラッキー)

活動内容

世界最貧国と言われるネパールには、十分な教育を受けられない子どもたちがたくさんいます。私たちは、そんな子どもたちのために、ネパールに小学校を建設するための募金活動やイベントを行っている団体です。また、春・夏の年2回のスタディツアーで支援先の村にホームステイし交流を行うことで、現地の子どもたちに寄り添った支援を心がけています。



【メッセージ】

政策学部政策学科2年次生 浅野 友紀菜

私たちの理念「Learn to Act, Act to Learn ~あなたと明日を~」に含まれる“あなた”とはLUCKYの活動に関わってくださる全ての人を指します。“あなた”への感謝を忘れず、ネパールの子どもの明日を創るために日々活動していきます。

ASUVID (アスビッド) 今出川

活動内容

ASUVID 今出川は、同志社大学に誕生して7年目のボランティア団体です。

私たちは京都周辺で地域に根ざしたボランティア活動を行っています。例えば鴨川清掃、過疎化や高齢化が進む地域でのお祭り運営のお手伝い、災害に備えた講習、子どもの教育支援、ペットボトルキャップを回収し、換金してワクチンを世界の子どもたちに寄付するエコキャップ運動を今出川校地内で行うなど、多岐にわたる活動を行いました。



【メッセージ】

社会学部社会福祉学科3年次生 田中 一秀

ASUVID 今出川は現在299名で活動しており、同志社最大のボランティア団体です。活動は全て学生の企画運営で成り立っており、学生が考え、感じ、成長するきっかけにもなっています。現在も京都でニーズを探し、活動の幅を広げていこうと奮闘中です!!

同志社 FAST (ファスト)

活動内容

同志社 FAST は大学内や市内で活動する地域防災サークルです。FASTとは「Fire and Safety Team」の略称で、京都府の大学生消防防災サークル支援事業「京都学生FAST」として創設されました。2017年12月現在で府内10大学にFASTが誕生しています。これまでの活動としては、大学内で学生向け救命講習の開催や地域の防災訓練への参加、外部防災イベントでのブース出展などがあります。防災イベントでは新聞紙で作るスリッパや食器など、誰でも簡単に作れる防災グッズを紹介しています。



【メッセージ】

文学部英文学科2年次生 西島 加於理

私たちはより多くの人にもっと防災を身近に感じてもらいたいという思いで活動しています。小さなお子様からお年寄りの方々まで分かりやすく、楽しく学んでいただけるよう心がけています。



同志社ヒーローショー同好会

活動内容

同志社ヒーローショー同好会は幼稚園や小学校、地域の祭りや福祉施設などの子どもの集まる場所において活動を行っているボランティアサークルです。

子どもたちや地域の皆様と、我々学生との交流を目的として『同志社戦隊タナレンジャー』の活躍するヒーローショーやボランティア活動を行っています。



【メッセージ】

経済学部経済学科2年次生 田口 拓海

ヒーローショーを通して子どもたちが素敵な笑顔になってくれる事が私たちの一番の喜びです。これからもひとりでも多くの方々に笑顔になっていただくため、より良い公演を目指します。

スポーツボランティア団体 Egg (エッグ)

活動内容

Eggの活動はスポーツの楽しさや魅力を伝えながら、スポーツを通して人と人のつながりを感じ、わくわくする経験をすることによって「子どもたちが未来に夢を持つ」ことを目的としています。毎週月曜日にミーティングをして、スポーツや運動が苦手な子に楽しんでもらえるような遊びなどを話し合っています。またスポーツ以外にも、子どもたちが普段できないことを考えて、企画しています。活動は小学校の授業が早く終わる水曜日が多いです。



【メッセージ】

生命医科学部医工学科2年次生 伊藤 亮平

Eggにはさまざまな思いを持った人がいます。スポーツが好きな人、子どもが好きな人、新しく何かをやりたい人。そうした人たちが一つの目標に向かって力を合わせています。大学生も子どももわくわくしながら、全力で楽しんでいます！



Global Baton for Ishinomaki (グローバルバトンフォーイシノマキ)

活動内容

国際交流の場の提供と活性化を目的に、活動しています。「三方よし」という自分だけではなく、「自分・他人・社会」のためになりたいという想いのもと、イベントや寄付活動などに取り組んでいます。具体的には、言語レッスンや、月1回料理パーティーや京都観光、季節のイベントなどを開催しています。その授業料や参加費を集め、寄付活動なども行っています。



【メッセージ】

生命医科学部医情報学科4年次生 谷口 尚

三方にそっと寄り添える団体でありたいと思っています。
国際交流に興味のある人、組織や企画づくり、社会貢献に興味のある人大募集中です。
ぜひ気軽にご連絡ください！

そら

活動内容

支援学校生親の会（子どもたちの保護者）と連携しながら、精華町に住む障がいをもつ子どもたちと、調理・工作・外出などの活動を企画、運営しています。

「そら」は2003年に特定非営利活動法人として京都府より認証を受け、学生だけでなく、困ったときにアドバイスをくれるスタッフ（職員）とともに活動しています。また今年から新たに、ひとり親家庭の子どもたちと一緒に勉強したり遊んだりする「学びの広場」という活動も始めました。子どもたちは物事の感じ方や捉え方が一人ひとり違うので、新しい発見があったり面白さを知ることができます。



【メッセージ】

心理学部心理学科3年次生 鈴木 慎也

「そら」の活動では子どもたちといつも楽しい時間を過ごしています。活動を続けていると実際に子どもたちの成長を肌で感じる場面が多々あります。そんなときは自分のことのように嬉しい気持ちになります。みなさんも僕たちと一緒に子どもたちの成長を近くで見守ってみませんか？

同志社生涯スポーツ研究会～DUAL Sport (デュアル スポーツ)～

活動内容

私たちは「あらゆる世代がスポーツに親しむことのできる生涯スポーツ社会」の実現に向けて活動しています。京田辺市内の小学校等でのドッチビーを中心とした生涯スポーツの指導や、夏季・冬季に一度ずつ「スポっこキャンプ」として小学生と一緒に自然を活用して生涯スポーツに親しむキャンプを行います。また、中京健康づくりサポーターの皆さんと連携して、ロコモティブシンドロームの予防の普及啓発運動をおこなっています。

【メッセージ】

スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科2年次生 中元 隆太郎

最近、いろいろなところで生涯スポーツの重要性が言われています。その生涯スポーツの活動を通して、幅広い年代の方々と楽しくスポーツができて、とても有意義かつ楽しいです。私たちの活動を通して、笑顔でスポーツに取り組む人を増やしていきたいです。



PAZ MUSICA (パズ ムシカ)

活動内容

PAZ MUSICA (パズムシカ) は、音楽を通して幅広い年代の方々と交流し、笑顔の輪を広げていくことを目的に活動をしている音楽ボランティアサークルです。老人ホーム、幼稚園や保育園、地域のお祭りや子ども会などが、主な活動の場となっています。バイオリンやサクソスから鍵盤ハーモニカやタンバリンなどの鳴り物楽器まで、演奏する楽器は様々で、参加者の方々と一緒に自分たちも楽しみながら活動をしています。

【メッセージ】

社会学部社会学科2年次生 片岡 菜々子

PAZ MUSICA の活動には、いつも素敵な笑顔との出会いがあります。音楽や人と関わることが好きな人、楽器未経験者の方も大歓迎です。一緒に笑顔の輪を広げましょう！



ASUVID (アスビッド) 京田辺

活動内容

私たち ASUVID 京田辺は同志社・同志社女子大学の学生、約 200 名を抱える京田辺キャンパス最大のボランティア団体です。地域に根ざした活動として竹林整備活動や、経済的に恵まれない子供達に勉強を教えるスタディサポートや子ども食堂を行なっています。その他にも奈良での農作業のお手伝いやお祭りのお手伝いなど、幅広い分野で活動しています。月一で開かれるクラブ会では、社会問題や自身について見直せる機会を設けています。取り扱っている分野が幅広いので会員一人一人にあった活動が見つかります。

【メッセージ】

理工学部機能分子・生命化学科3年次生 石濱 泰平

私たちの団体は約 200 人の会員が在籍しているということを通りに様々な視点から社会問題に挑戦しています。また、会員一人一人の「挑戦してみたい」や「やってみよう」という気持ちを尊重した活動を意識しており、活動を通して大きく自分を成長させられる団体です。



 同志社大学 学生支援センター
ボランティア支援室

開室時間 9:00~17:00 (平日)

HP <http://volunteer.doshisha.ac.jp/>



今出川校地

〒602-0023 京都市上京区烏丸通上立売下ル御所八幡町103
室町キャンパス寒梅館1F

Tel(075)251-3236 Fax(075)251-3099

Mail ji-volun@mail.doshisha.ac.jp

京田辺校地

〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷1-3
京田辺キャンパス多目的ホール(ハローホール)

Tel(0774)65-6777 Fax(0774)65-7421

Mail jt-volun@mail.doshisha.ac.jp